



定借一册

中外新聞  
第十九號



西垣文庫  
文庫 10  
7324  
6



文庫10

7324

6

中外新聞第十九號

慶應四年四月廿九日

四月廿三日 出板横濱新聞の譯

今月廿一日東久世中将横濱港を受取りよ成より運上所の  
役人半分を江戸へ歸り半を留まり居る事と成り故よあま  
り差支も無けれども通詞一人も居合せず差當り色々差支  
への根子よ見えたり

八九日前勝安房守江戸より來り英人と應接あり其事柄を  
知らず

今日サラミス船彌此地を出帆し兵庫へ往く可し英國公使

西垣文庫

パークス君此船に乗し京都に到り 天子に謁して事を議  
するが爲かり

江戸及び近在此有格にて戦争も無く穩に引渡して成るが  
らに各國公使彌々新政府を日本全國の領主と認め諸事共  
に相談いとし助力すべし然れども北方諸侯よても何人よ  
ても先將軍の爲に兵を起し南方諸侯と戦ふ者ありて日本  
は尚大君有る事明らふる間え各國公使矢張是までの通局  
外中立の法を守り決して手出しを成さざるべし  
兵庫よりの書翰に大坂兵庫共に萬事誠に平穩なり帯刀の  
者も多く居留す然れども外國人へ對してをいひつれも丁寧

ふる事よて更よ心配の事無し是を以て考れを新政府の役  
人を餘程開けしむると見えより前の政府の家臣よそ此の如  
き人を甚稀よこれ有りしのみ

日本商人を臆病よて代呂物の仕込をあす事甚少し故に當  
地の交易甚微くとして寂寥あり恰も野陣の光景よ似て更  
に交易場の景色よあらずと云へり

横濱今時輸出貨物の直段左の如し

生糸前橋極上の品十六貫匁に付八百六十ドルより九百ド  
ル次と八百ドルより八百四十ドル並を六百四十ドルよ  
り七百四十ドル奥州極上八百三十ドルより並六百五十

ドル迄色く不同甲州極上品無一並よて六百五十ドルより七百ドル越前極上六百八十ドルより七百十ドル次を六百四十ドル位並を四百五十ドルより五百五十ドル茶極上之品十六貫匁よ付三十四ドルより三十六ドル最上三十一ドルより三十三ドル其次色く不同並の最下直ある所よて十六ドル位

烟草一番口十六ノ目よ付十四ドル二番を十ドルより十二ドル三番を七ドルより九ドル  
蠟十六ノ目よ付十六ドルより十七ドル  
人參五十斤よ付一ドル半より四ドル二分まで

菜種十六ノ目よ付三ドル九分より四ドル  
菜種油十六ノ目よ付八ドル九分より十ドル  
樟腦十六ノ目よ付廿二ドルより廿三ドル半  
ドル相場四十三匁九分より四十四匁一分あり  
輸入物價を又次號よ譯出すへー

○日本民口の多少を論ず

是れ横濱在留洋客某の説ふり偶其手記の稿本を得て之を抄す

青眼外史 譯

西洋の地學書は日本の民口を總計する説いづれも同トウ  
 らず或も一千萬有餘と云ひ或も一千五百萬或も二千五百  
 萬或も四五千萬と云ふ然るは吾日本は來り住する事既に  
 數年日本人は遇ひて屢これを質問するは一人も慥は其答  
 をおす者無し然れど諸書は言ふ所を固り傳聞の儘に記し  
 たる者あるが故より大なる差ひあるあり併しおがら日  
 本の國風何事も隱秘して實事を外國人へ告げざる習を  
 かる故に民口の眞數も隱して知らせざるはやと思ひて種  
 と探索せしう全く民口の慥なる數を政府の役人さへも知  
 らざる事と見えたり左すれを人別改めの法の粗なる故に

民口の數正しく知れ難きからん歐羅巴洲就中文明開化の  
 邦に於ては殊更民口の數を改むるは其規則ありて本洲を  
 離れたる藩屬の地方までも明細に調ぶる事あり夫故年々  
 人民増殖の數も慥に相分る事衆人の知る所の如し日本に  
 ても往古を 王朝にて國々の人別を細うに改められし事  
 ことや古史を按ずるは往々全國の戸口を吟味し其内より兵  
 士を取りし事明かり紀元六百八十九年より天下の民口を  
 計り男子の四分之一を兵丁に充たる由を記し又九百八十八  
 年より全國の人夫八十八萬三千二百廿八人ありし由を記  
 せり却て今日に至りて民口の多少詳ならず然れども吾が

考ふる所よてを四五千萬といふを固より誇大の談あるべ  
く大抵一千五六百萬といふ者其實を得るよ近うるべし其  
證據を言ち、吾が英吉利の大きと日本并よ四國九州と合  
せよる大きと其里方積を比較すれを大抵日本を英國の一  
倍よあよる英國を戸口の稠密ある事殆歐羅巴の冠とり且  
國土よく開けて不毛の地無し而して人口二千七百萬有餘  
あり若し日本の人烟稠密ある事英國と均しうらめを五  
千萬を過ぐと云ふも適當あるべし然るよ吾日本の周圍を  
航行し港々の様子を一覽し富士山を初め諸山よ登りて山  
麓の地を望み見しよ不毛未墾の地甚よ多し英國よてを倫

敦を離るし事數十里の僻邑と雖も民戸を尚擲比す日本を  
江戸を距る事僅よ五七里よしで既よ廣漠の野有りて僅よ  
星散の人家を見るのみ是よよりて推考すれを全國の人口  
吾が英國より少きをもとよりの事よて假令多くも二千萬  
よを過きざるべし且又六七年來生糸の輸出盛んよて日本  
産物中の隨一とり然るよ年々直段高く成り行くのみよて  
出高え一向増す事無し其生糸の出る地を甲州信州奥州越  
前あどよていつれも不毛の地多き國あり勿論日本人を例  
の亞細亞風よて舊來の仕來りのみを守り新よ土地を開き  
産物を殖す事あしを好まぬ風俗ふれとも現在莫大の利益

有る生糸さへも仕入をする者の少きを以て考ふれは是亦  
思ひの外民口の少き一證あらん歟

中外新聞日増し相弘まりは後偏し書林中の丹精して満足  
の至し存し然る處此頃中賣出し遅速の依り付彼是議論差  
起り趣相聞えは間此方規則一應り述は最初摺始めの節  
より社中人數相定まり居はし付右社中一同へ一人し付一  
部ツ、配當いしし其後餘計し出來いしし本を書林中へ  
賣弘めは事し夫故活字摺立出來日附よりも賣弘めの日  
限を必ずおくれは等し尤段々號數相増しは處矢張第一  
號より揃ひの注文多く有之しし付兎角新板の方製本手お  
くれし成勝しは故毎く不本意ながら賣出しの日限折し延  
引相成しし付書林中待兼ね催促の段尤至極し存し間可成

文相急ぎの振尚又職人共へも付置の乍去規則を賣出し  
當日より江戸中書林一同へ相弘め此定めを決して變改  
無之の一方の書林へ渡す一方の書林へ不渡ふと云ふ事を  
決してこれ無くの間一同此趣承知可有之但し此頃の風  
聞よと聞成所稽古人などへとより新板の分一冊買受けを  
れを店先へ出しいて仲満を欺き以者も有之哉と相聞え以  
尤風聞の事と付此方よとを取上げ不すいへども右振のい  
とづら致し以者を書林仲満よと如何振共懲らしいて可然  
い依て此段及通辞以上

新聞局

江戸書林中